

■第2次稲敷市総合計画■■■

第1回審議会資料

基礎調査の結果について(案)

目次

1. 稲敷市を取り巻く状況	1
2. 稲敷市の現況	3
3. 市民参加の結果概要	5
(1)市民意識調査	5
(2)グループヒアリング	12
(3)いなしき未来会議	14
4. 達成度状況調査	19

平成 27 年 12 月 18 日

政策調整部政策企画課

# 1. 稲敷市を取り巻く状況

## (1) 人口減少時代への対応

---

- ・我が国の人口は2050年には約9700万人と推計されている。
- ・地方都市においては、約6割の地域で人口が半数以下になると想定されており、そのうち3分の1の地域では、人が住まなくなるといわれている。
- ・我が国の人口減少は、世界に先駆けて加速しており、高齢化率が4割を。
- ・このような状況を受け、政府は「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」「総合戦略」を策定し、すべての地域が、地域の特性を活かして人口対策を講じる取組を推進している。
- ・稲敷市においても、人口問題への取組を全市的な取組として進めていく必要がある。

## (2) 安心・安全な国土づくり

---

- ・我が国は国土、風土の条件から、数多くの災害に見舞われてきた歴史があり、これらの災害への対策は最重要事項である。
- ・気候変動による災害の激甚化が懸念されるとともに、首都直下地震、南海トラフ巨大地震の切迫（30年以内の発生確率70%）などが懸念されているところである。
- ・3.11の震災に続き、近年では鬼怒川の決壊による水害などがあいついで起こっており、自然災害への対策が求められている。
- ・災害の教訓からの取組と併せ、高度成長期に集中整備したインフラの老朽化等への対策も見据えながら、災害に強いまちづくりを進めていく必要がある。
- ・国では、あらゆるリスクを見据えつつ、最悪な事態を避けられるような「強靱」な行政機能、地域社会、地域経済を作り上げていく取組として「国土強靱化基本計画」を策定している。
- ・稲敷市においても、南関東直下型地震の想定エリア内の地域であり、河川や湖などの水に囲まれる地域であることなどから、自然災害への警戒が必要な地域であり、地域における防災対策など災害に強い総合的なまちづくりへの取組が求められている。

## (3) 環境問題・エネルギー問題への対応

---

- ・地球規模での環境問題は、国際的な取組の強化にもかかわらず、依然として深刻な状態である。
- ・地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、環境ホルモン、自然破壊、生物多様性の危機など。
- ・また、我が国の人口は減少に転じているものの、世界の人口は爆発的に拡大しており、資源・食料・エネルギー確保の確保が国家レベルでの課題となっている。
- ・稲敷市においても、地域経済・社会的課題の解決に資する持続可能な社会の構築を目指して、廃棄物対策、リサイクルの取組をひきつづき進めていくことが重要である。

#### (4) ICT・地域情報化の活用

---

- ・ICTの急速な発展に伴い、社会経済や文化のグローバル化が加速している。コンピュータとその処理能力の飛躍的増大し、様々な分野でICTが活用される時代となった。
- ・ICTは、新たな富の創出や生産活動の効率化に資することから、ICTの活用は経済成長のための重要な鍵となっている。
- ・ICTのグローバル展開を視野に入れ、我が国の経済成長と国際社会への貢献が期待されている。
- ・稲敷市においても、ICTを戦略的に活用し、新たな街づくりや超高齢化への対応や、ICTを活用した新たなモノづくりが期待されている。

#### (5) グローバル化・観光立国の推進

---

- ・グローバル化の進展により、国家間、都市間の競争の激化がこれまで以上に進展することが確実となっている。
- ・2014年、訪日外国人旅行者は初めて年間1000万人を突破。今後も飛躍的に拡大することが予想される。
- ・海外旅行者の増加に伴うインバウンド消費（訪日外国人による国内での消費）の急速な拡大が進んでおり、地域の産業に影響している。
- ・稲敷市においても、霞ヶ浦や地域の自然・食などを活かした観光への取組が求められている。

#### (6) 地方創生・地域再生への取組

---

- ・人口減少時代の到来、減少の加速化が進むとともに、地域格差、地方から都市部へ減少が拡大する。
- ・人口減少は我が国全体の経済にも影響を与える。特に地方では、経済社会の維持が重大な局面になることが予測されている。
- ・東京圏のみに人口が一極集中し、日本の人口は減少していく。
- ・将来にわたって活力ある日本社会を維持し、地方が地方の強みを活かしていく取組として「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」が策定され、地方においては、「地方版人口ビジョン」により、地域の再生を図っていくこととなった。
- ・稲敷市においても若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現を目指した取組みを進めるとともに、稲敷の豊かな自然資源、地域資源を活用した取組を進めていく必要がある。

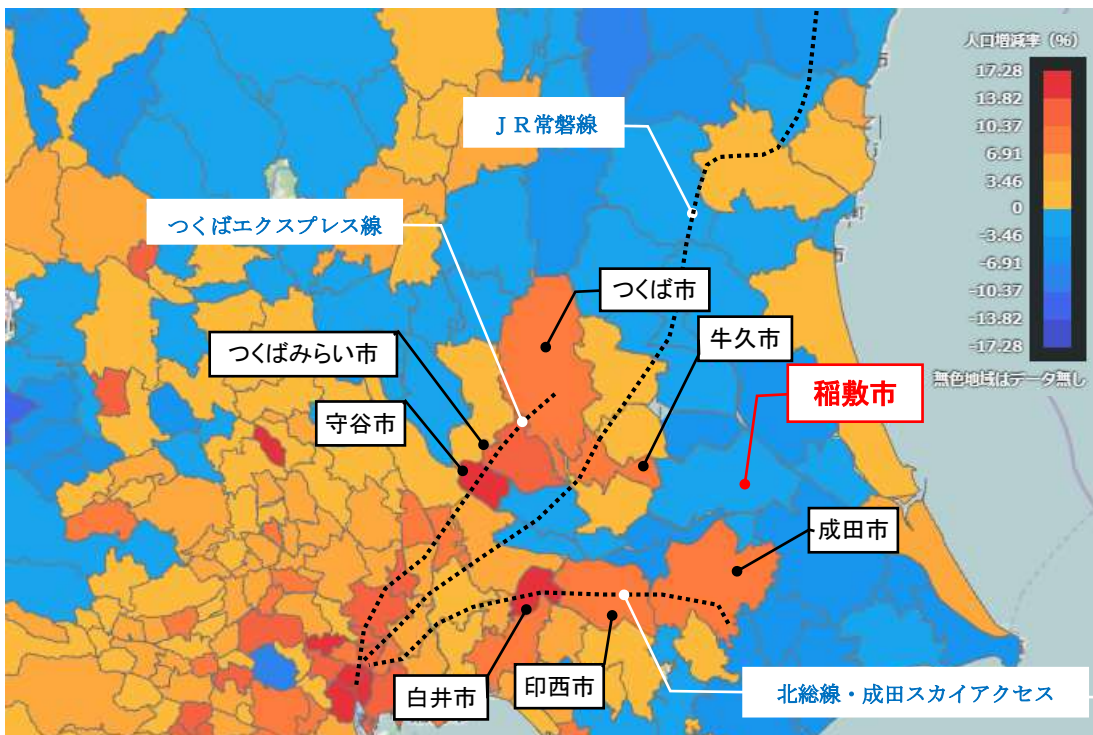
## 2. 稲敷市の現況

### (1) 現況

#### <人口・世帯>

- ・人口増加率は、平成7年から20年以上減少が続いている
- ・総人口は10年間で約6,400人(13%)、20年間で約8,400人(16.3%)が減少している
- ・年齢別人口の割合は、30年間で15歳未満は半減し、65歳以上は倍増している
- ・「つくばエクスプレス線」や「北総線・成田スカイアクセス」の沿線の自治体で人口増加が顕著となっている(守谷市やつくばみらい市、つくば市、牛久市、成田市など)

【人口増加率図(平成17年—平成22年)】

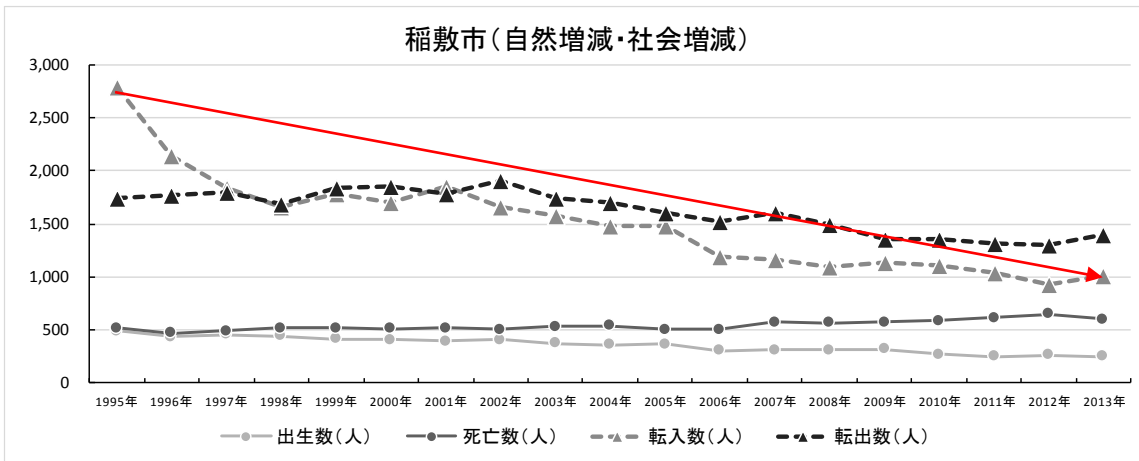


【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

#### <人口動態・移動>

- ・過去15年間で転入者の減少が最も顕著で転出超過が長期的に続いている
- ・転出先として、龍ヶ崎市(約3割)が多く、次いで牛久市や土浦市(約1割)などとなっている
- ・20歳代の転出者が最も多く40歳頃まで転出超過が続いている
- ・子育て世代(10歳未満と20代から30代)の移動数の減少が特に多くなっている
- ・若年層(20歳前後)の地域間移動は長期的に流出超過となっている
- ・婚姻件数が平成12年から約10年間で半減、合計特殊出生率は長期的に減少が続いている

【自然増減・社会増減の推移】



【男女別年齢階級別社会増減数（平成 26 年）】



<産業・雇用>

- ・ 第一次産業の就業者数は 25 年間で約 7 割減少している
- ・ 販売農家・農業就業者人口ともに平成 2 年からの 20 年間で急速に減少している
- ・ 第三次産業の就業者は増加傾向が続き、半数以上を占めている
- ・ 商店数は平成 9 年からの 15 年間で約 4 割減少している

<人口の将来展望（人口ビジョン）>

- ・ 10 年後に 3,300 人が減少、20 年後で 6,200 人が減少、45 年後に 13,600 人が減少する予測となっている

<その他>

- ・ 交通事故発生件数は平成 16 年から減少し続け、約 10 年間で半減している
- ・ 居住世帯なしの空家は平成 20 年から 40 件増加している

## 3. 市民参加の結果概要

### (1) 市民意識調査

#### ■調査の概要

- ・調査対象者：市内に住む20歳以上の2,000人（住基台帳より無作為抽出）
- ・調査方法：郵送配布
- ・調査期間：平成27年10月1日（木）～平成27年10月20日（火）の20日間
- ・配付数：2,000票／回収数：678票／回収率：33.9%

#### ■アンケート内容

1. 稲敷市の住みごごちについて（住みやすさ、住み続け意向）
2. 稲敷市の状況について（現在の満足度・今後の重要度）
3. 稲敷市の今後の“まちづくり”について  
（“稲敷らしいまちづくり”について、何に着目し、どのようなまちづくりを進めたらよいか）

### ■アンケート結果のまとめ

(1) 住みにくさを感じながらも住み続けたいと感じている人は6割

(2) 市民ニーズの把握「現在の満足度」と「今後の重要度」

- ①「公共交通」、「地域医療体制の充実」、「工業の振興」、「人口問題」などは今後優先的に取り組むことが求められている

#### ・個別の項目でみる満足度

- ①若い世代(50歳未満)の満足度を50歳以上と比べると、「市内や市外への幹線道路」が最も差が大きく、次いで「公共交通」、「教育内容の向上や指導体制」、「便利で住みやすい市街地」などとなっている
- ②50歳以上の満足度を若い世代と比べると、「自然環境の保全」が最も差が大きく、次いで「歴史的資源を活用した観光振興」、「工業振興による雇用の安定及び拡大」などとなっている

#### ・個別の項目でみる重要度

- ①若い世代の重要度を50歳以上と比べると、「小・中学校の教育内容の向上や指導体制」が最も差が大きくなっている。
- ②50歳以上の重要度を若い世代と比べると、「霞ヶ浦や歴史的資源を活用した観光振興」が最も大きく、次いで「特産品の開発、ブランド化や地産地消」、「観光や交流の拠点となる場所や施設」などとなっている。

(2) 稲敷市の今後のまちづくりにおける着目すべき点

- ①稲敷市の資源等を活用した稲敷らしいまちづくりに取り組むために「公共交通」や「雇用・工業団地」、「子育て環境」などといったまちづくりの視点が今後求められている。

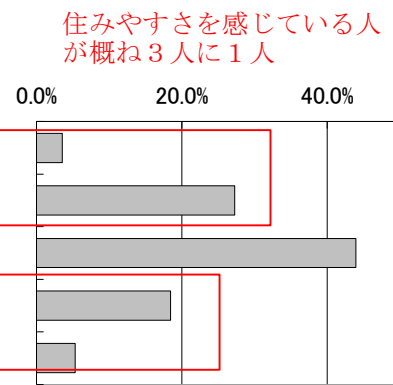
## ■アンケート結果の概要

### (1) 住みやすさ・住み続け意向（継続居住希望者）

- ・「住みやすさを感じている人」が 209 人で概ね 3 人に 1 人
- ・「住みにくさを感じている人」が 161 人で概ね 4 人に 1 人
- ・今後も稲敷市に住みたいと感じている継続居住希望者が 6 割以上

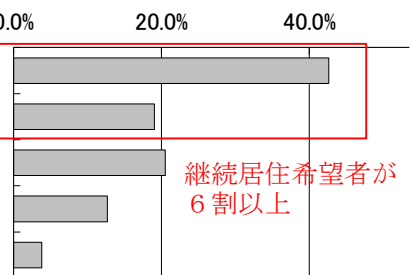
◇あなたは稲敷市を住みやすいと感じていますか。(N=678)

	票数	今回	前回	前々回
1 とても住みやすい	24	3.5%	3.9%	6.1%
2 住みやすい	185	27.3%	26.8%	27.6%
3 普通(どちらともいえない)	298	44.0%	50.8%	50.2%
4 住みにくい	125	18.4%	13.6%	12.5%
5 とても住みにくい	36	5.3%	2.7%	3.3%
6 無回答	10	1.5%	2.2%	0.4%



◇あなたは稲敷市に今後も住み続けたいですか。(N=678)

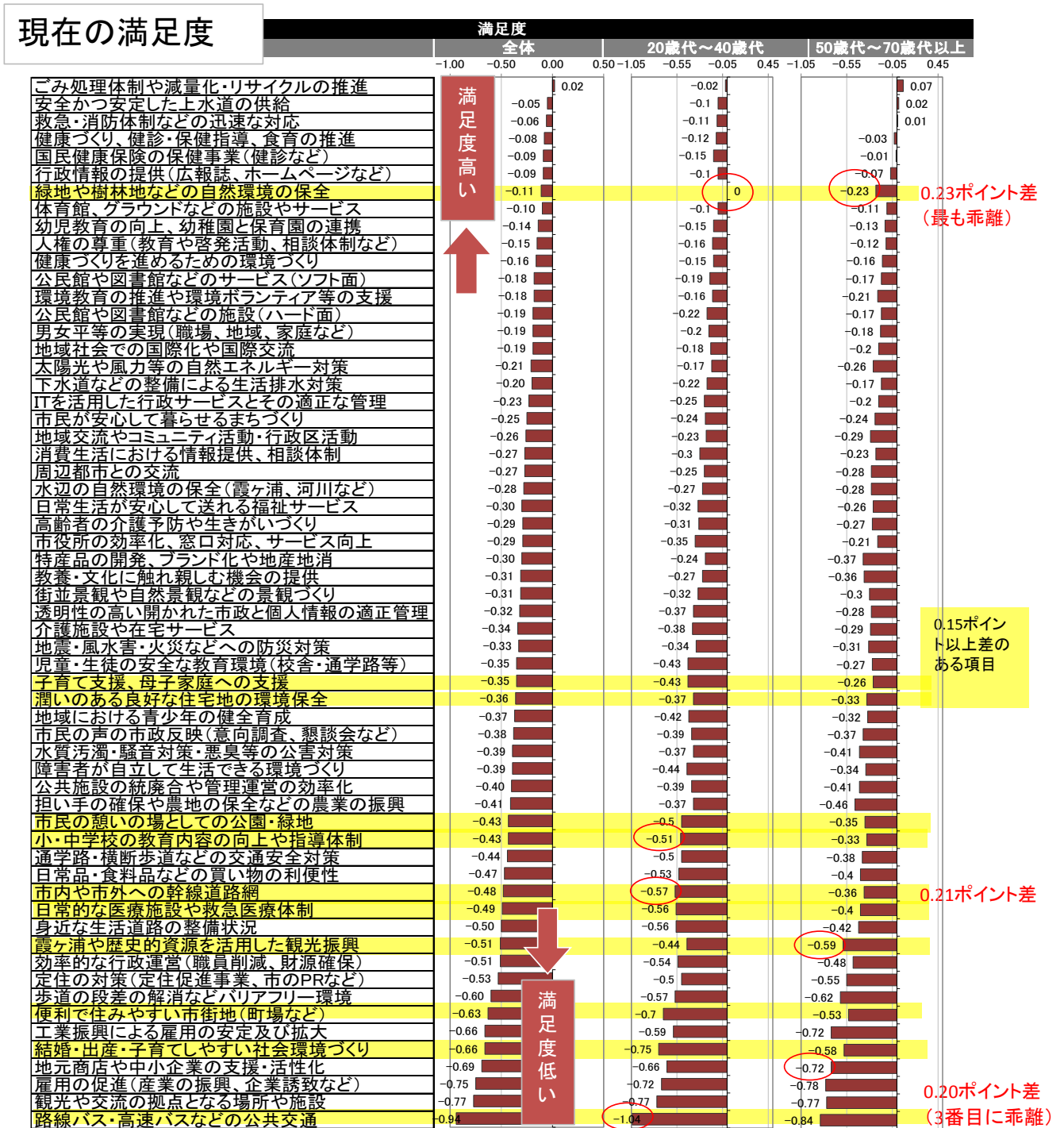
	票数	今回	前回	前々回
1 住み続けたい	289	42.6%	49.2%	53.5%
2 当分住みたい	129	19.0%	16.6%	14.9%
3 どちらとも言えない	139	20.5%	18.3%	15.3%
4 できれば住み続けたくない	86	12.7%	11.0%	11.6%
5 住み続けたくない	26	3.8%	1.8%	3.5%
6 無回答	9	1.3%	3.1%	1.2%



※「住みやすさを感じている人」とは、「とても住みやすい」と「住みやすい」を合わせた方

※「住みにくさを感じている人」とは、「住みにくい」と「とても住みにくい」を合わせた方

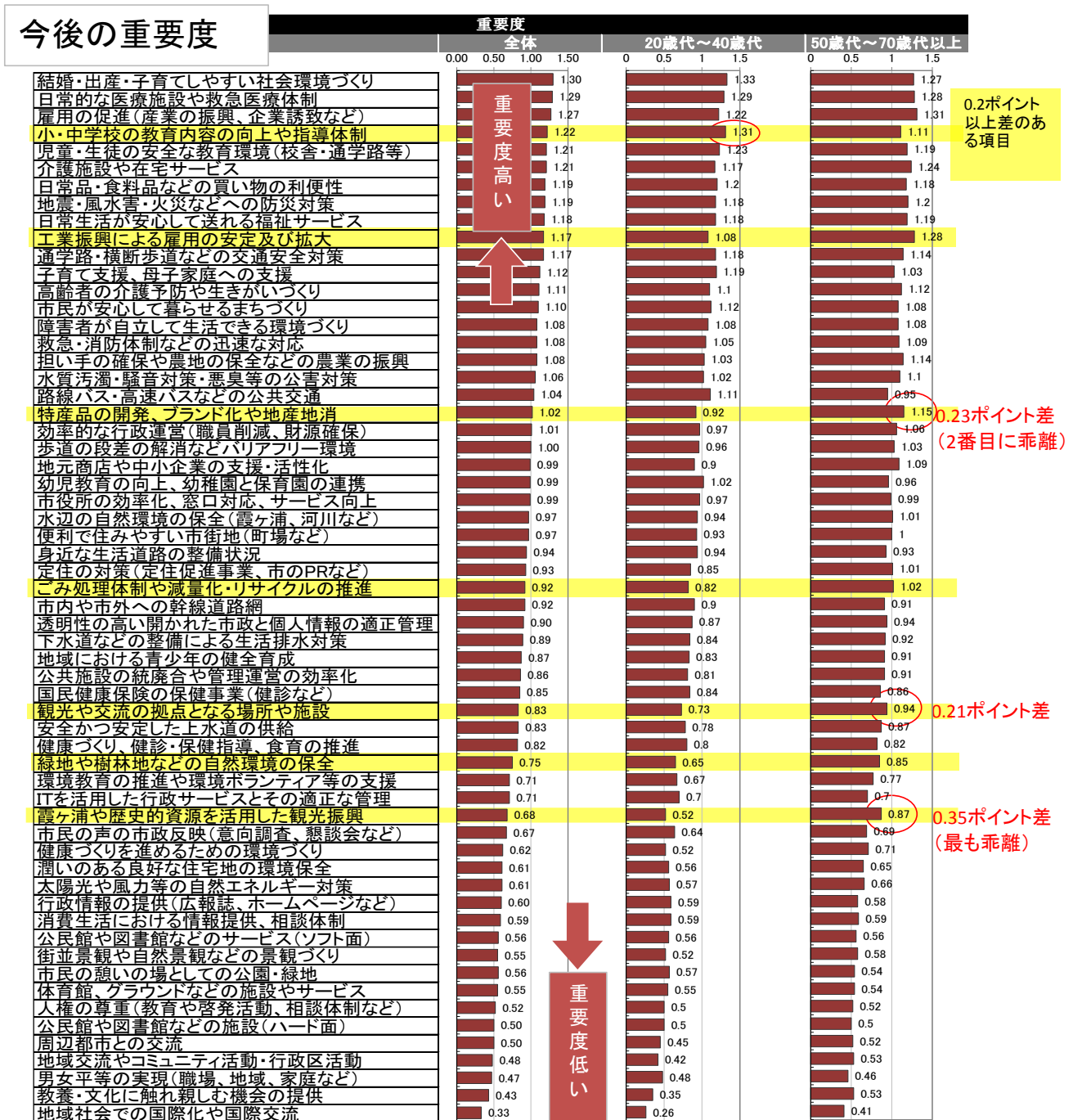
<項目ごとにみる「現在の満足度」の一覧（全体・年代別）>



「①現在の満足度」及び「②今後の重要度」について5段階（満足、やや満足、どちらともいえない、不満、やや不満）の回答結果を以下の計算方法によりグラフにしました。  
 「満足」をプラス（「満足」を選んだ人×2ポイント、「やや満足」を選んだ人×1ポイント）  
 「不満」をマイナス（「不満」を選んだ人×マイナス2ポイント、「やや不満」を選んだ人×マイナス1ポイント）  
 「どちらともいえない」をプラスマイナス0としてポイントに変換し、最後に母数（全回答者）で割る。



<項目ごとにみる「今後の重要度」の一覧（全体・年代別）>



0.2ポイント以上差のある項目

0.23ポイント差  
(2番目に乖離)

0.21ポイント差

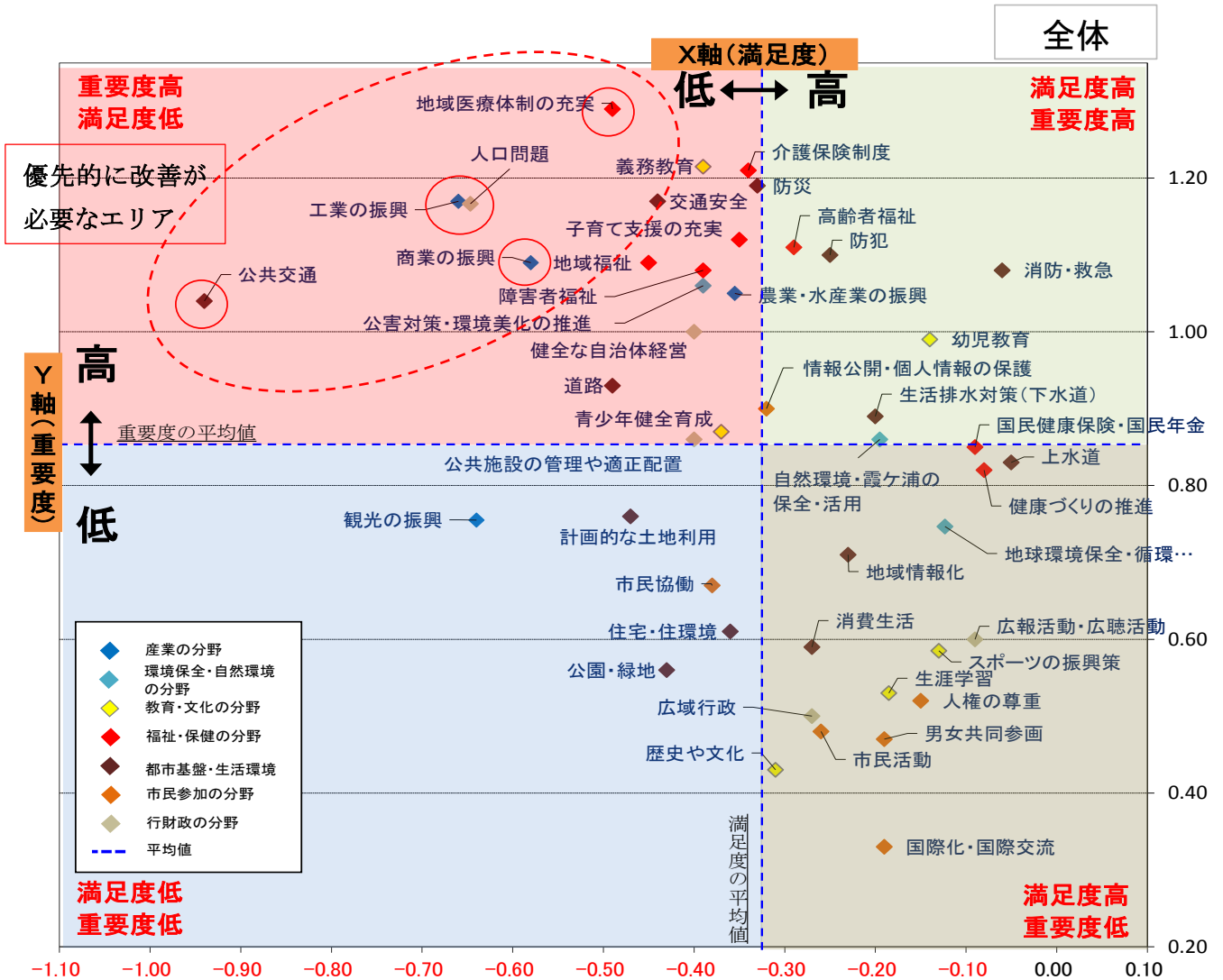
0.35ポイント差  
(最も乖離)

「①現在の満足度」及び「②今後の重要度」について5段階（満足、やや満足、どちらともいえない、不満、やや不満）の回答結果を以下の計算方法によりグラフにしました。  
 「満足」をプラス（「満足」を選んだ人×2ポイント、「やや満足」を選んだ人×1ポイント）  
 「不満」をマイナス（「不満」を選んだ人×マイナス2ポイント、「やや不満」を選んだ人×マイナス1ポイント）  
 「どちらともいえない」をプラスマイナス0としてポイントに変換し、最後に母数（全回答者）で割る。

(2) あなたは稲敷市の状況について、「現在の満足度」と「今後の重要度」

・あなたは稲敷市の状況について、どのように感じていますか。「現在の満足度」と「今後の重要度」について

＜【CS分析】分野別にみる「現在の満足度」と「今後の重要度」の散布図＞



「現在の満足度」及び「今後の重要度」について5段階（満足、やや満足、どちらともいえない、不満、やや不満）の回答結果を以下の計算方法により散布図にしました。

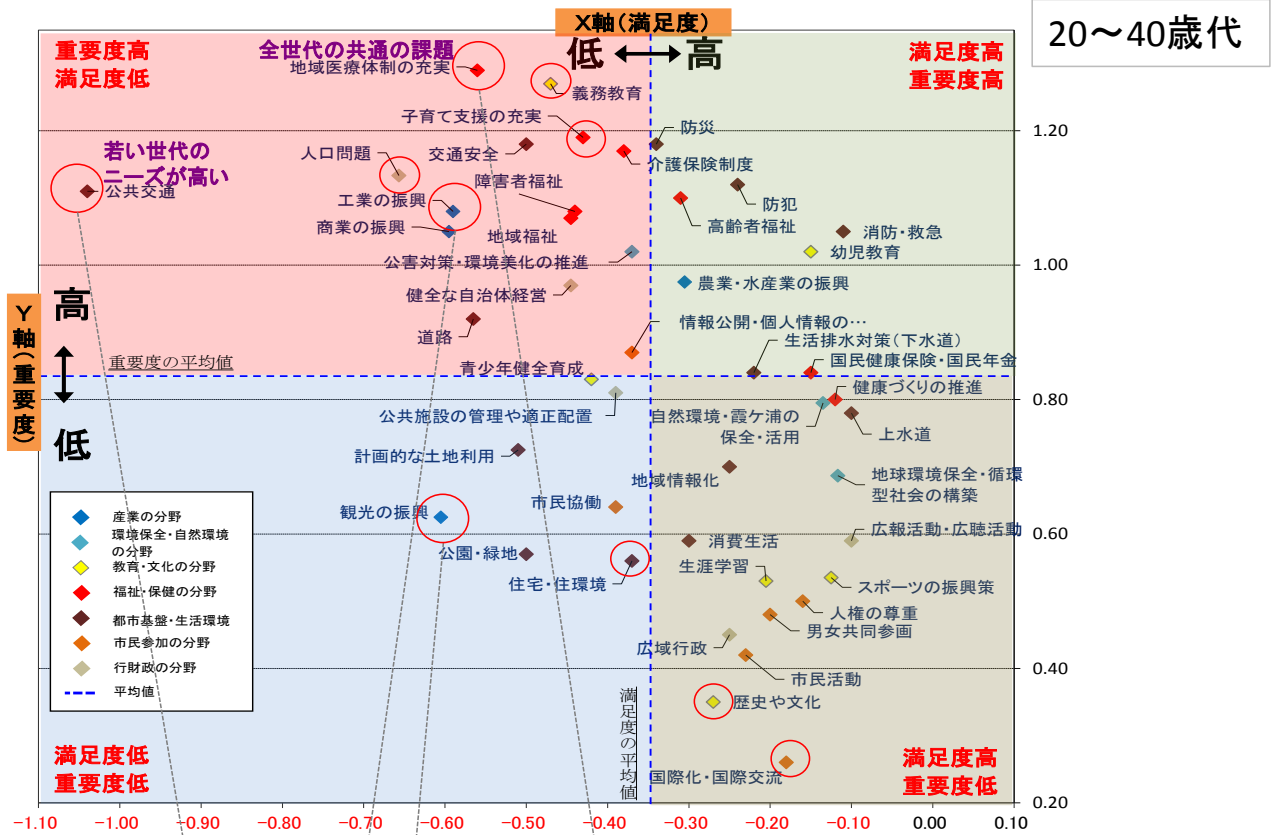
「満足」をプラス（「満足」を選んだ人×2ポイント、「やや満足」を選んだ人×1ポイント）

「不満」をマイナス（「不満」を選んだ人×マイナス2ポイント、「やや不満」を選んだ人×マイナス1ポイント）

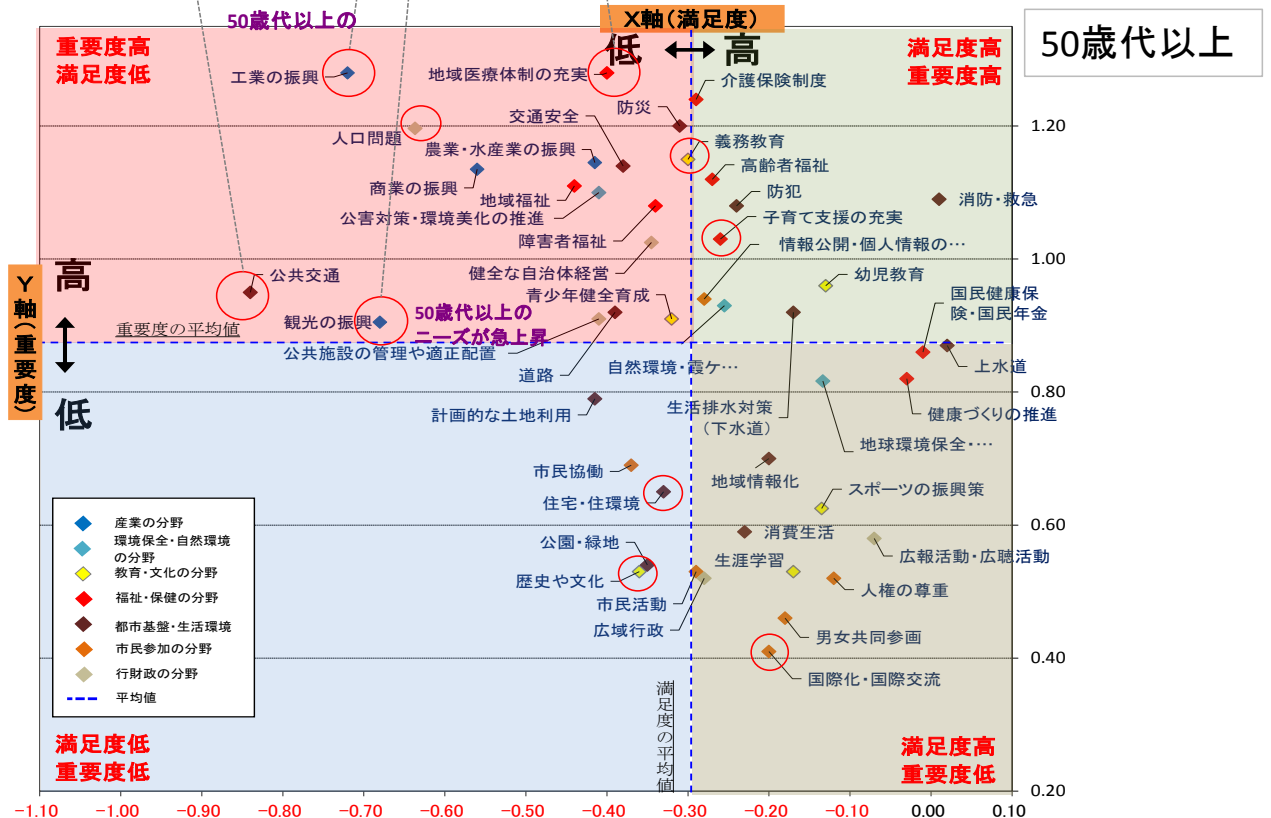
「どちらともいえない」をプラスマイナス0としてポイントに変換し、最後に母数（全回答者）で割る。



<【CS分析】年齢別(20歳代~40歳代まで)にみる「現在の満足度」と「今後の重要度」の散布図>  
 ※全体平均年齢44歳

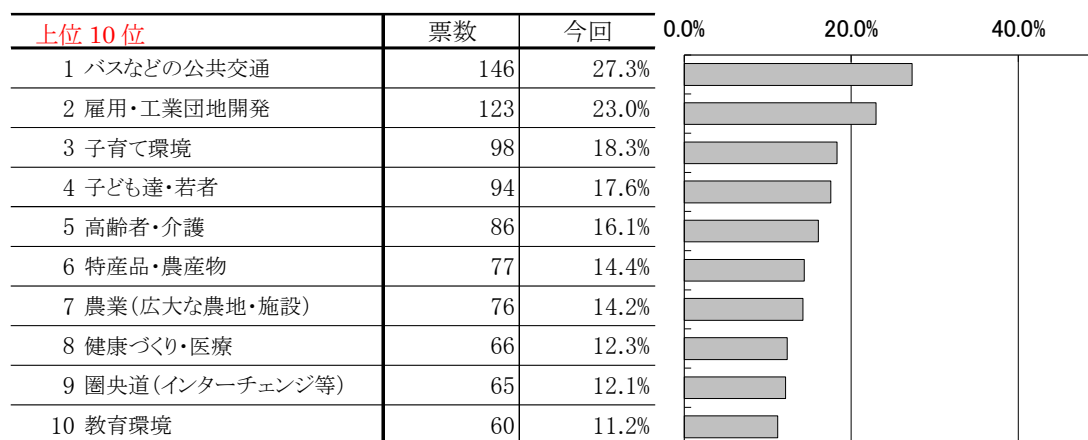


<【CS分析】年齢別(50歳代以上)にみる「現在の満足度」と「今後の重要度」の散布図> ※全体平均年齢44歳



### (3) 稲敷らしいまちづくりの着目点（着目点とまちづくりの進め方）

◇あなたが考える“稲敷らしいまちづくり”について、何に着目し、どのようなまちづくりを進めたらよいと考えますか。長期的な視点（10～20年程度）でお答えください。（N=535）



◇どのようなまちづくりを進めたらよいか（意見の一部抜粋）

項目	意見の概要
1位 バスなどの公共交通	車がなくても生活できる
	学生の交通手段の確保
	バスの待合場所を憩いの場に
	通勤や通学時の利便性を高めて、東京への通勤・通学を可能にする
	成田や佐貫方面などのへのバス など
2位 雇用・工業団地開発	若者が地域で住み働ける
	企業と連携・協力したまちづくり
	商店街の活性化 など
3位 子育て環境	子育てと仕事の両立できるまち
	子育てママのコミュニティの充実
	安心して子育てができる環境と支援 など
4位 子ども達・若者	若い人や子どもが地元に着定できる環境づくり
	地元で働く場 など
5位 特産品・農産物	子ども・若者が興味を持つ地域づくり
	特産品を外へとPR
	地産地消など

## (2) グループヒアリング

### ■調査の概要

・実施時期：平成 27 年 11 月 5 日～11 月 25 日（計 4 日間）

・実施グループ（6 グループ・合計 53 名）

- |                     |                      |
|---------------------|----------------------|
| ①子育て世代（未就学児の親） 11 名 | ②子育て世代（就学児の親） 7 名    |
| ③学生（大学・専門学校） 4 名    | ④働く世代（20-30 歳代） 18 名 |
| ⑤働く世代（40-50 歳代） 6 名 | ⑥シニア世代 7 名           |

### ■ヒアリング内容

1. 稲敷市の良いところ・悪いところ
2. 5 年前、10 年前と比べてどのように変わったか
3. 稲敷市で豊かに暮らしているイメージ
4. 豊かに暮らしを実現させるために、稲敷市あるいは市民・地域は何をしたらよいか

### <ヒアリング風景>



子育て世代（未就学児）



働く世代（20～30 歳代）



学生



子育て世代（就学児）



働く世代（40～50 歳代）



シニア世代

## ■グループヒアリングによる稲敷で豊かに暮らすためのキーワード

いいものをもっと積極的に発信

多世代交流が活発な地域コミュニティ

若い世代が暮らしやすい環境づくり

## ■結果の概要

稲敷らしさ	稲敷らしさを維持する課題	改善の手段
観光資源・特産品が多い	<p>【資源の活用・維持】</p> <p>PR不足</p> <p>地域産業の担い手不足</p>	<p>【資源の発信】</p> <p>SNSを使った発信</p> <p>観光拠点化</p> <p>特産品の開発・活用など</p>
自然が豊か	<p>【コミュニティの変化】</p> <p>排他的なコミュニティ</p> <p>若い世代との交流が少ない</p> <p>地域の交流の場が減少</p> <p>地域のまとめりがなくなった</p>	<p>【施設や場の活用】</p> <p>農地をコミュニティの場として活用</p> <p>施設の利活用（学校跡地等）など</p>
コミュニティが良い	<p>【若い世代のまち離れ】</p> <p>公共交通が利用しにくい</p> <p>働く場がない</p> <p>子育てと仕事の両立できない</p> <p>小児科・病院（救急）不足</p> <p>子どもの遊び場が少ない</p> <p>学生の居場所がない（勉強の場）</p>	<p>【コミュニティの再生】</p> <p>地域のお祭りの復活</p> <p>多世代交流の場</p> <p>あいさつの推進など</p> <p>【いきいき暮らす】</p> <p>市民と企業の仕事のマッチング</p> <p>若い世代の働く場・雇用創出</p> <p>シニア世代の活用</p> <p>情報拠点（市民大学）など</p>

### (3) いなしき未来会議

#### 調査の概要

- ・対象者：無作為に抽出した 2,000 名の市民の中から参加者を募集  
(アンケート調査に申込み用紙を同封)
- ・参加者：27名 (20代：3名、30代：5名、40代：7名、50代：2名、60以上：10名)
- ・日時：平成 27 年 11 月 29 日 (日) 午前 10 時～午後 2 時
- ・場所：江戸崎庁舎 2 階会議室
- ・主テーマ：「いなしき未来会議～稲敷で豊かに暮らすために～」
- ・話合いの進め方
  - ①班構成：世代・居住地が混ざるように分けた 4 つの班で実施
  - ②話合い (1) 「稲敷の良いところ・不足しているところ」
    - (2) 「稲敷で豊かに暮らすために」
    - (3) 発表 (各班)

#### <話合いの風景>



話合い風景 (1 班)



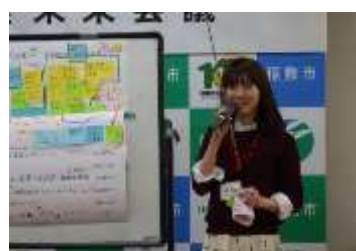
話合い風景 (2 班)



話合い風景 (3 班)



話合い風景 (4 班)



発表風景



発表風景

#### ■ 「いなしき未来会議」による稲敷市で豊かに暮らすためのキーワード

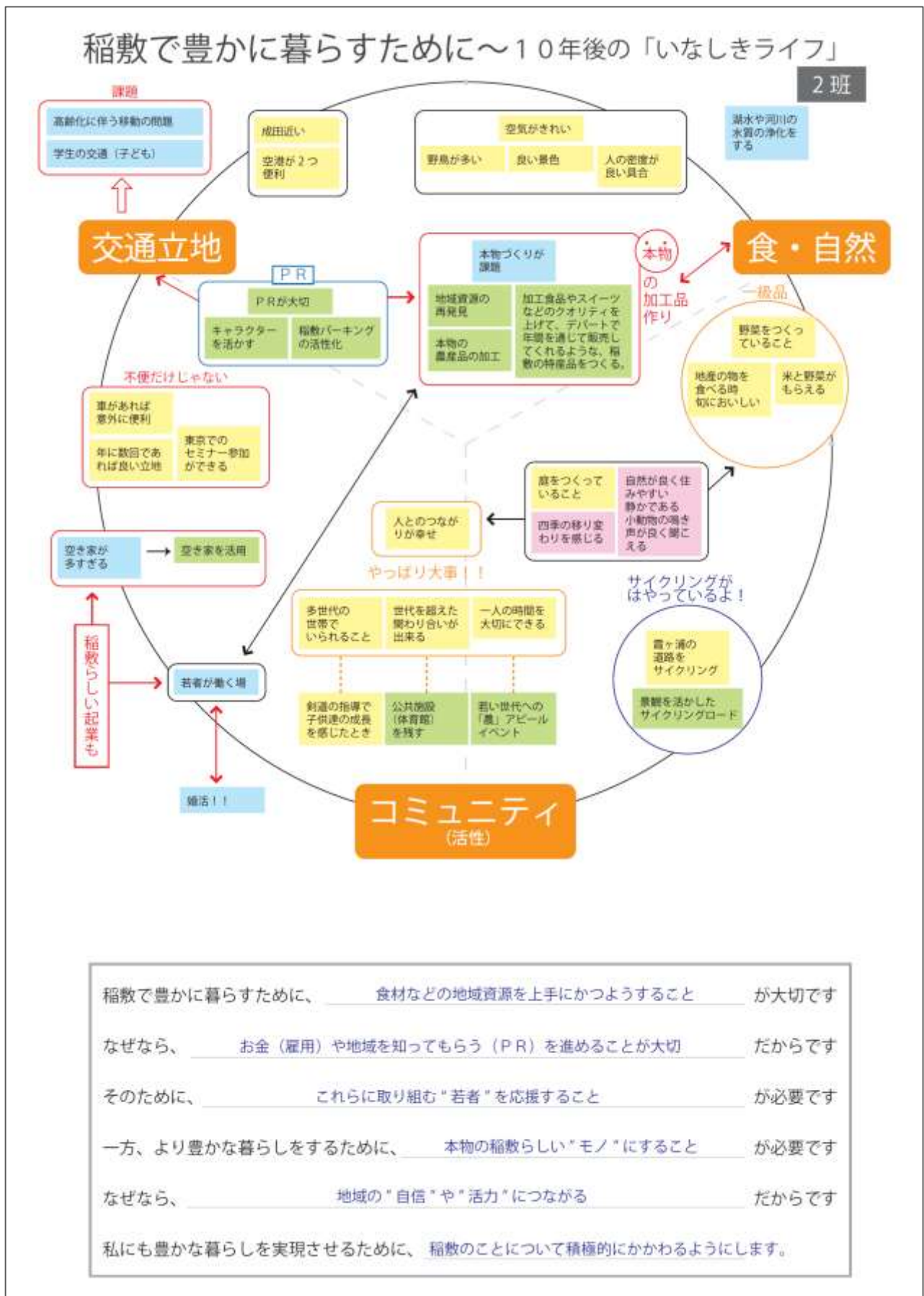
稲敷で豊かに暮らすために大事な要素は  
「コミュニティ」「資源 (食・自然)」、「子育て・教育」、「交通」

# 稲敷で豊かに暮らすために～10年後の「いなしきライフ」 ＜1班＞





## < 2班 >



稲敷で豊かに暮らすために、食材などの地域資源を上手にかつようすることが大切です  
 なぜなら、お金 (雇用) や地域を知ってもらう (PR) を進めることが大切だからです  
 そのために、これらに取り組む「若者」を応援することが必要です  
 一方、より豊かな暮らしをするために、本物の稲敷らしい「モノ」にすることが必要です  
 なぜなら、地域の「自信」や「活力」につながるだからです  
 私にも豊かな暮らしを実現させるために、稲敷のことについて積極的にかかわるようにします。

<3班>



稲敷で豊かに暮らすために、（見る・遊ぶ・食べる） 恵まれた資源を守っていくこと が大切です  
 なぜなら、もったいない からです  
 そのために、稲敷市にある恵まれた資源の再認識・再利用 が必要です  
 一方、より豊かな暮らしをするために、まず、稲敷市民が市のことをもっと知っていくことが必要です  
 なぜなら、市のことを知る機会が少ない からです  
 私にも豊かな暮らしを実現させるために、まず、一歩ふみだして「参加」してみることが できます

< 4 班 >

稲敷で豊かに暮らすために～10年後の「いなしきライフ」

4 班



**内的** 稲敷で豊かに暮らすために、 \_\_\_\_\_ 人・コミュニティ \_\_\_\_\_ が大切です  
 なぜなら、 \_\_\_\_\_ (次世代) 皆が安心して住み続けられる \_\_\_\_\_ からです  
 そのために、 \_\_\_\_\_ 交流の場 \_\_\_\_\_ が必要です

**外的** 一方、より豊かな暮らしをするために、 \_\_\_\_\_ 発信 \_\_\_\_\_ が必要です  
 なぜなら、 \_\_\_\_\_ 稲敷市の良さを活かすことが出来る \_\_\_\_\_ からです  
 私にも豊かな暮らしを実現させるために、 \_\_\_\_\_ 知り合いに積極的に、 \_\_\_\_\_ フェイスブックやツイッター等で情報発信 \_\_\_\_\_ できます

## 4. 達成度状況調査（速報版）

### （1）達成度状況調査の概要

#### ■調査の概要

・稲敷市後期基本計画の達成度状況を把握するため、担当セクションにおいて、計画期間（平成24年度～平成28年度見込み）における後期基本計画の「施策」、「指標」、「事務・事業」の達成度及び評価を実施しました。

・また、市民の視点での評価として、市民意識調査の結果から後期基本計画の「施策」の「満足度」「重要度」を示し、行政、市民、双方向からの評価を合わせた総合的な評価を目指します。

#### ■実施期間

・平成27年11月2日から11月13日（達成度状況調査）

・平成27年10月1日から10月20日（市民意識調査）

### （2）評価項目（5項目）

#### ■評価項目

・評価項目は、以下の5項目です。

・担当セクションによる評価は「目標の達成度（j）」「施策の達成度（c）」「事務・事業の達成度（a）」の3項目

・市民意識調査による評価は、施策に対する「市民からみた満足度（d）」「市民からみた重要度（e）」の2項目

### （3）政策（章）ごとの達成度状況

#### ■評価項目

◇目標の達成度（j）は、後期基本計画において具体的に設定した数値目標の達成率です。

→「環境保全・自然環境」「教育・文化」の分野で非常に高い達成度となっています。

◇市民からみた満足度（d）は市民意識調査における相対的な満足度を示しています。

→政策分野毎にまとめると、特徴は出ないものの「産業」分野の満足度がやや低くなっています。

◇市民からみた重要度（e）は市民意識調査における相対的な重要度を示しています。

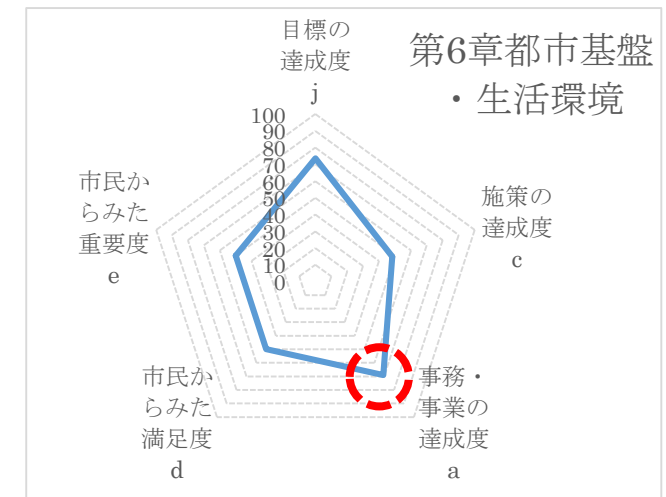
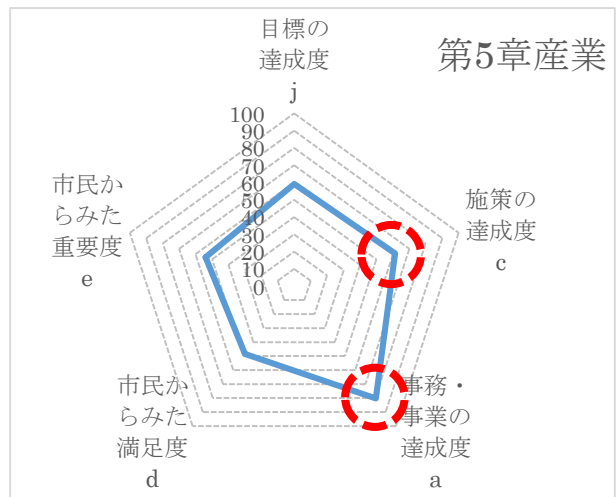
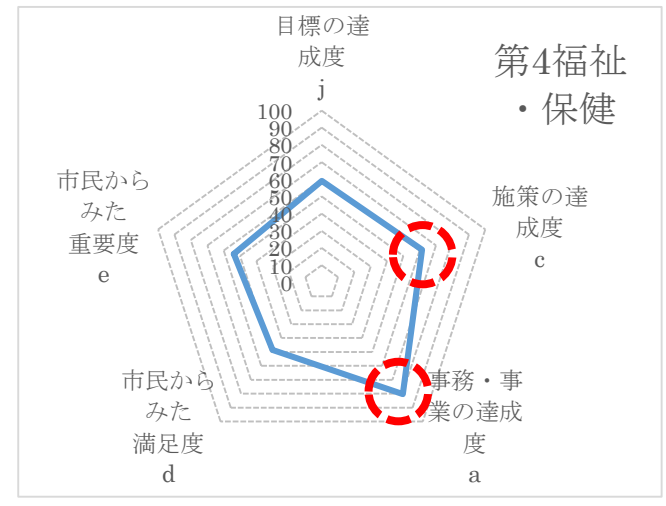
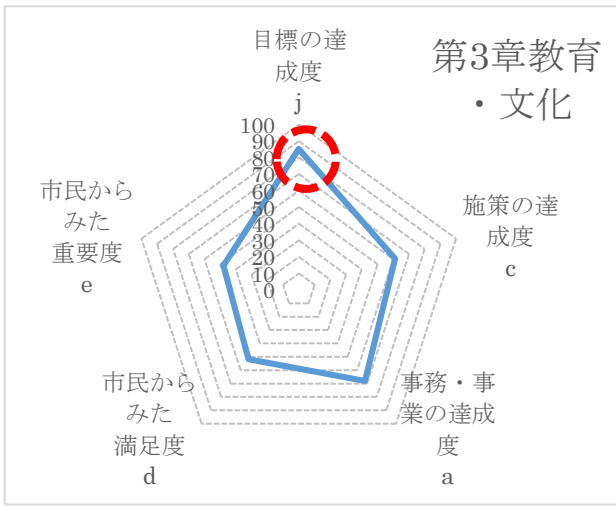
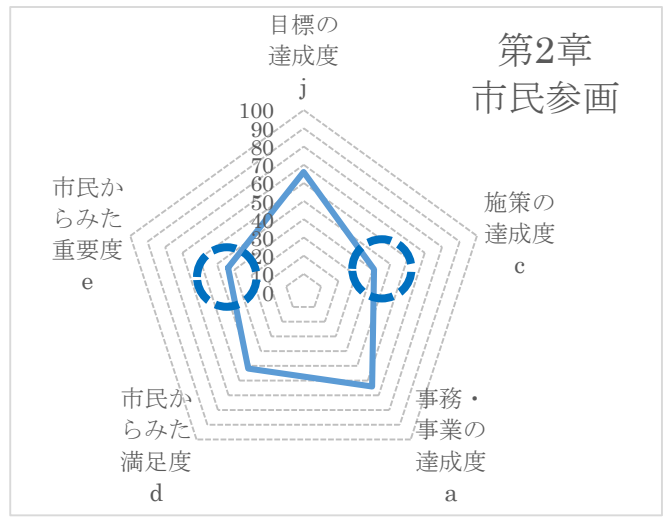
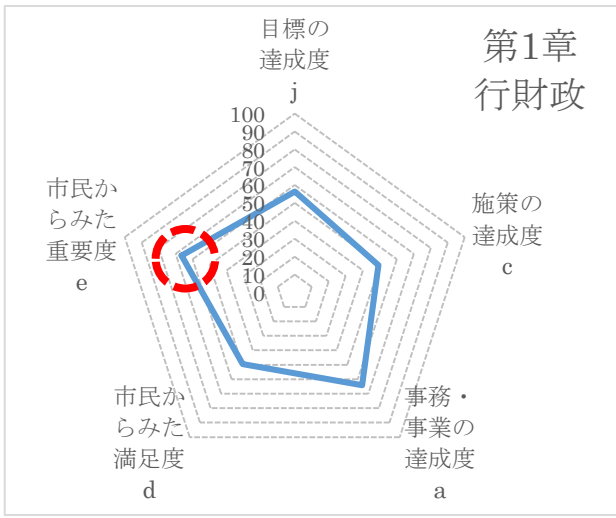
→「行財政」の分野で重要度がやや高く、「市民参画」の重要度がやや低くなっています。

◇施策の達成度（c）は、後期基本計画において示した個別施策（最少単位）の達成率です。

→「福祉・保健」「産業」「都市基盤・生活環境」の分野で比較的達成度が高く、「市民参加」の分野でやや達成度が低い状況となっています。

◇事務・事業の達成度（a）は個別施策を実現するための具体的な事務・事業の達成率です。

→全体的に高い達成率ですが、特に「福祉・保健」「産業」「都市基盤・生活環境」が高い達成率を示しています。



- 「後期基本計画」の章（政策分野）
- 第1章 行財政
  - 第2章 市民参画
  - 第3章 教育・文化
  - 第4章 福祉・保健
  - 第5章 一産業
  - 第6章 都市基盤・生活環境
  - 第7章 環境保全・自然環境

